



## 元ラグーマン・経営者 立石 哲也の 体当たりインタビュー

塾経営者の立石氏が、会いたい先生に会いに行き、率直な言葉を投げかけ対話する「体当たりインタビュー」。今回ご紹介するのは、東京理科大学との提携でも話題になっている富士見中学校高等学校の上野先生です。物理の担当であり、ソフトボールの顧問でもあった上野先生。最近の“リケジョ”の動向や学校の意欲的な試みについてお伺いしました。

第二十五回

富士見中学校高等学校教諭

上野 友巳 先生

上野 友巳 先生 プロフィール

現在の勤務校にて在職 26 年目、2 年目にソフトボール部を創部、理科主任、校務運営委員、進路主任、学年主任を経て今年度より高校教頭となる。



# 間違えても大丈夫。 大学の講義への参加は 進路選択に大いに役立ちます

## 教師の道を選んだのは 家庭教師時代の生徒の一言

**立石** 私は、ここ数年御校を模擬試験の会場としてお借りし、試験会場の責任者を担当させていただいているご縁があります。御校は、最新の設備はもちろん、校舎の美しさや随所に飾られている美術品が印象に残りますがそれはなぜですか。

**上野** 本校の創設者である山崎種二は、美術館を建てるほど、美術に対する造詣が深い人物でした。その関係もあり、本校にも多くの美術品が飾られています。生徒は、毎日、至る所で美術品を鑑賞することで穏やかな気持ちを持つことが出来ているかもしれません。

**立石** 上野先生の教師としての経歴を聞かせてください。

**上野** 私は、最初、城北中学校高等学校で物理の非常勤講師として勤めていました。その時期に、本校の採用試験があると聞き、試験を受けました。その際に、城北中学校高等学校に本校から「上野先生はどういう先生ですか？」という問い合わせがあったらしく、城北中学校の方が「粗削りだが、熱意のある先生です」と答えてくださったようです。ちなみに城北中学校高等学校の初代校長は、深井鑑一郎先生で、富士見の初代校長も勤められた先生でもあります。私が本校に奉職したのも何かのご縁があったのかもしれない。

**立石** そういうこともあるのですね。ご縁を感じるお話ですね。

**立石** そもそも、どうして教員になろうと思ったのですか。

**上野** 自分は高校の時から、成績も下から数えた方が早いような生徒でした。特に私は、企業に勤めてバリバリ働くような自分の姿が想像できませんでした。それよりも、非営利な立場の公務員になろうと考えていました。その試験を受験するために、比較的時間の融通がきく非常勤講師をしていました。また同時に家庭教師の仕事もしていたのですが、その当時、授業が上手くいかず、家庭教師で教えている生徒に思わず弱音を吐いてしまったことがありました。ただ、その生徒は「僕にとっては、先生は面白いし、よい先生だと思うよ」と言ってくれたのです。それが嬉しく励みにもなり、教師に強くやりがいを感じる事が出来ました。それまでは、公務員になろうか教員になろうかといろいろ試行錯誤をしていましたが、その生徒の一言で心が固まりました。

## 薬学部を目指す生徒の増加。 物理の選択も視野に

**立石** 物理は学生時代から好きだったのですか。

**上野** 学生時代は歴史が好きでした。ある時、NHKのスペシャル番組でアインシュタインの特集を見て、物理に興味を持ちました。そこから、大学の文系学科を目指すのもいいけれど、理系に進学するのもいいかなと思い始め、紆余曲折を経て、理系学部に進学して理科の教員免許を取得しました。

**立石** 非常勤講師として男子校で教えているときは、物理が

好きな生徒が多かったと思いますが、女子校になると理科好きの生徒はそんなに多くはない気がします。いかがですか。

**上野** 以前は、おっしゃる通りでした。赴任した当時は物理を選択している生徒はたったの3人でした。今で言う「リケジョ（理系を希望する女子）」という言葉もなかったのが、少なかったですね。看護系の大学を志望する生徒は増えてはいたのですが、慶應義塾大学と共立薬科大学が合併した頃に、薬学部を志望する生徒が増えるタイミングで、理工系の志望者も徐々に増えていき、入試科目に物理を視野に入れる生徒が増えました。私もその流れを意識し、物理は模試の結果を生徒に見せたりして、「成績が伸びやすいのは物理だ」とか、「物理を選択した皆さんで頑張ろう」と特別感を伝えていました。現在では、物理を選択する生徒も増えました。もちろん、理系を志望する生徒も増え、今では文系を志望する生徒と理系を志望する生徒は半々にまでなりました。

**立石** 国公立大学を目指すには、理科2科目が必要な場合も多く、薬学部も2科目が必要な大学もありますよね。大学受験の場合、国公立大学の理系学部の入試において、国語も入試科目に必要なので、国語ができる女子は理数科目だけが強い男子より確かに有利な場合がありますね。更に物理が得意だとこちらでも有利に働きますよね。上野先生は中学生にも教えているのですか。

**上野** 本校は中学のときから専門性を活かした教員配置がなされているため、各専門の教員が担当して教えています。私も物理の担当として教えています。

**立石** それは素晴らしい環境ですね。中学校の理科の教員は専門外のことも教えていけない場合が多いですが、本校であれば生徒が興味を引くような授業ができるので理科離れがなくなりますね。入試問題も作成されているのですか。

**上野** 入試問題では物理の問題を担当しています。他にも各分野の教員がテーマや題材を持ち寄って入試問題を作成しています。問題文からヒントをあたえたり、グラフをしっかりと読み取って答えるような出題を大事にし、意識しています。一問一答のような知識を中心とした出題はしないようにしています。知識よりも、しっかり考えて論理的思考力が高い生徒の方が中・高の期間で学力が伸びる傾向があります。

## 高大連携による 目的意識を持った学部選びを

**立石** 理科の実験も多いのですか。

**上野** はい、とても多いと思います。しかも東京理科大学と高大連携をしているので、中・高の施設ではできないような実験もしています。東京理科大学の研究室で実施した実験を、近隣の小学生を集めて生徒が授業をするという取り組みも考えています。これは、理科好きの子どもを増やそうという狙いで実施するものです。

**立石** それは素晴らしい取り組みですね。高大連携についての利点をもう少し教えてください。

**上野** 本校と東京理科大との高大連携の利点は大きくは2点あります。1つ目は本校の生徒達が連携によって理数系の学びに対する興味が深まっているということがあげられます。様々な企画を通して大学の研究にふれることで中学高校時代の学びが社会にどう還元されていくのかを知ることができています。このことで生徒達の学びに対するモチベーションをあげることに繋がっているように感じます。連携を通して社会との接点を感じられることには大きな利点があると感じています。2つ目は、中高と大学の円滑な接続があげられます。進学する生徒たちにとって最も不幸なことは大学の学びと本人の希望のミスマッチです。大学に入学してから学びたい分野が違うと感じることのないよう、中高時代にいろいろな学部の講座、実験に参加して、より明確に大学の学びを想像して入学できることが利点だと思います。社会の担い手として卒業後は社会で活躍してほしいので、目的意識を持って進学してほしいと考えています。東京理科大学の科学が普及することで国を発展させるという考えと本校の教育目標である『社会に貢献できる自立した女性の育成』は同じ考え方だと感じています。

**立石** 具体的にはどのような活動をされていますか。

**上野** 東京理科大学の学生が、本校の生徒に自分が研究している内容や学生生活のことについて話しをしてくれる機会を設けています。また教授に來校していただき、模擬授業もさせていただいております。生徒たちは大学に行って研究室で実験をしたり、講義を受けたりもしています。

**立石** 高大連携でいつも気になっていたのが、大学で講義を受けている時間帯は本校でも授業が実施されていると思います。その場合はどのような形で実行されているのですか。

**上野** 高大連携をしているので、生徒は公欠扱いで大学に行っています。午前中は本校で授業を受けて、午後は大学に行って講義を受けるという形になっていることが多いです。

**立石** 大学に講義を受けに行くのは高校生ですか。

**上野** 中学生も講義を受けられますが、基本的には高校生が多いです。中学3年生から講義を受ける生徒もいます。

**立石** この連携によって理系に進学する生徒が増えますかね。

**上野** ただ、ちょうどコロナ禍中に連携したので、連携当初は大学にも行けなかったのが苦労はしました。東京理科大学の学長から本校の生徒に向けてメッセージを送ってもらい連携していることが意識できるように工夫していました。また、オンライン講座を視聴したりしたのですが、内容が難しく感じることもあり、連携を実感できない事や自分達の先行きに

不安を感じる生徒達がいたのも事実です。

**立石** コロナ禍での連携の活動は中々できませんよね。不安を感じている生徒達にはどのようにアドバイスされたのですか。

**上野** 失敗したり間違えたりしてもいいので、とにかくチャレンジしようと言っています。この分野には興味がないということがわかれば、将来選択しなければよいため、進路を考えるとき自分が興味がないことを知る事も大いに役立つと考えています。もちろん、意外にも興味が出たらそれはそれで進路選択の一つだと考えられます。とりあえず、やってみようという精神ですが、中々、生徒には受け入れにくいかもしれません。

### 身近な先生が悩み、前進する姿を生徒に見せたい

**立石** 失敗から得るものは、たくさんありますよね。失敗だと実感してからの行動が大事。でも、それはわかってはいても、難しいですよ。私は、人生失敗続きですが、常にチャレンジして失敗している毎日です。先生の中で、教員生活の

中で失敗したかなと感じられたことはありますか。

**上野** 私も行き当たりばったりの人生を歩んでいるので、失敗したかなということは多いですが、ソフトボール部の創部当初のことは印象に残っています。ソフトボールをやったことがないので、本屋で指導書を購入して、その本に沿って指導をしていました。練習内容をブログでアップしていたところ、そのブログを見ていた他校の先生から練習試合のお誘いがあり、その学校に行ったら、バットやボールなどの用具一式が一回り違ったのです。私たちが練習していた用具一式は小学生用のもので、その学校から用具を借りて練習試合をしました。どうやら、その指導書が古く、規格が古いものでした。そこでの反省もあり、ソフトボールを経験したことのある保護者にコーチをお願いすることもありました。本校の近くの石神井はソフトボールが盛んな地域なので、ソフトボール部への興味から本校へ入学してそのまま入部という生徒もいて、その生徒たちが部を引っ張ってくれたこともありました。ソフトボール部は、去年まで顧問を務めていました。

**立石** 面白いですね。先生のお話を伺うと最初は教員を志望していたわけではないのに、ここまで様々な取り組みをされているというのは、最初から教員であるという意識よりも、どこか学校を俯瞰的に見ているというか、視野の広さがあるから幅広い経験ができていのかという気がします。

**上野** そうですね。好きなことが自由にできています。本校には、教師も失敗も含めて挑戦することを許される環境があるのかもしれない。先生の個性を出せる学校です。

**立石** 上野先生は、将来どんな先生になりたいですか。

**上野** 生徒の前でも、いつまでも悩み続ける先生でいたいですね。これからの社会はますます変化して、正解のない時代に突入していると思います。身近な先生が悩み続けることで、生徒に自分達も悩んでもいいんだと思ってもらいたいですね。悩みながらも前進する姿を見せたいです。それが生徒たちの未来につながっていくのではないかと感じています。

**立石** 最後に、生徒たちにどんな人になってほしいですか。

**上野** 先ほども申し上げましたが、正解のない社会で試行錯誤を続けて自分なりの正解を見つけられる生徒になってほしいです。学習や受験で正解があるとインプットされているかと思いますが、日常生活に落とし込んだ時に、人間関係であったり、美雪祭(学園祭)や体育祭などのイベントの準備・実施をすることであったり、そういったことに正解なんてないと思います。ただ、試行錯誤することで自分なりの正解が見つかるかもしれません。人生も試行錯誤の毎日かと思っています。

### 【取材後記】

20年程前、前職で富士見中学に訪れたことがあります。その当時、対応していただいた先生が私に、「本日、狂言の鑑賞会があるのでよかつたら見てください」とお誘いを受け、素晴らしい舞台を見させていただきました。こんな体験を、一つの学校が、狂言師を呼んでまでできるなんてとスケールの大きさにびっくりしました。校舎内に飾ってある絵画などの美術品に驚き、感受性の高い生徒が育てられるんだろうなと思っていましたが、上野先生のお話を伺っていると、サイエンスに関しても普通の学生が体験できないような取り組みもされていて、今でいうSTEAM教育を超越した学びであるような気がしました。「本物に触れる」学校生活を生徒たちが送れていることに、羨ましい気持ちで一杯です。対談していただいた上野先生も非常に人間性が高い先生なので、いろいろなお話を伺えて楽しかったです。丁度、我々の世代はベビーブームの世代で、「予備校では、有名講師の授業などは並んで席を取ったりしていました」。そんな話までしていただいて自分も懐かしかったです。富士見中学は人間味に溢れる学校です。ぜひ一度足を運んで、スケールの大きさを体感してください。

### 立石 哲也 プロフィール

1975年生まれ。市川学園、中央大学卒業。教育関係の会社に就職。2012年、36歳で個太郎塾北赤羽教室を開業。2021年5月より浅草教室の運営も手掛ける。教室経営の傍ら、「子どもたちに幅広い選択肢を！」という想いから、首都圏模試で個別指導EPPリーダーとして活動をしている。



## 富士見中学校高等学校教諭上野 友巳 先生 思考コード

	先生としての取り組み <b>A</b>	学校としての取り組み <b>B</b>	生徒の成長 <b>C</b>
<b>3</b>	いつも悩んでいる姿を生徒に見せることでこの社会には正解がないことを伝える。	社会的な課題に対して自ら探究する生徒を育てる。	多様な背景を持つ人々と協働し新たな価値を生み出す。
<b>2</b>	生徒達の将来を考えて新しい取り組みを積極的に採用する。	東京理科大学との高大連携によって理数系の学びに対する興味が深まっている	自分の将来をしっかりと考えて、チャレンジをし、世の中に貢献していく。
<b>1</b>	生徒が物理に興味を持てるような取り組みを行う。	校舎内に絵画、美術品を置くことで生徒の感受性を高める。	日々、試行錯誤をして自分なりの正解を見つける。